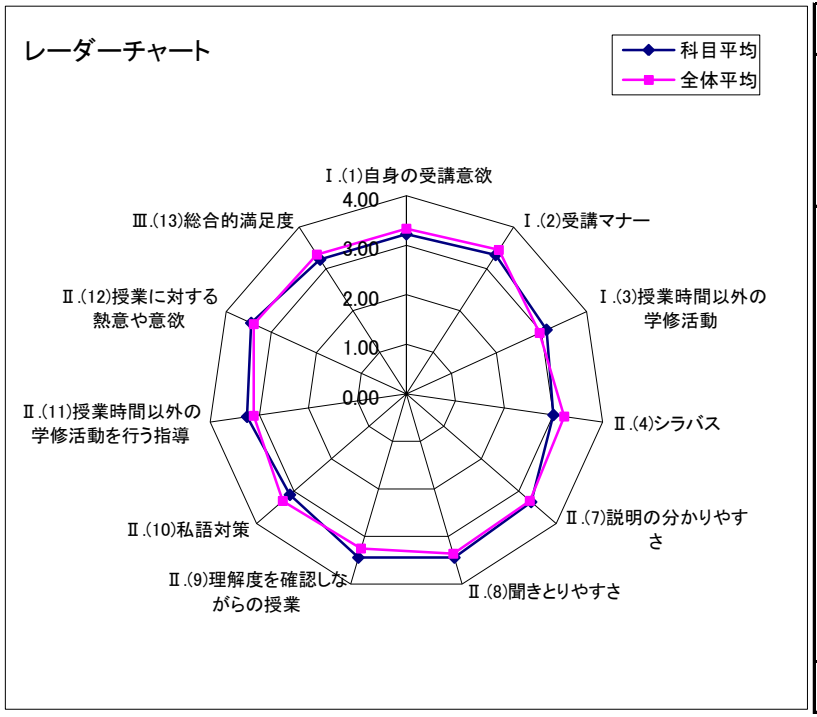
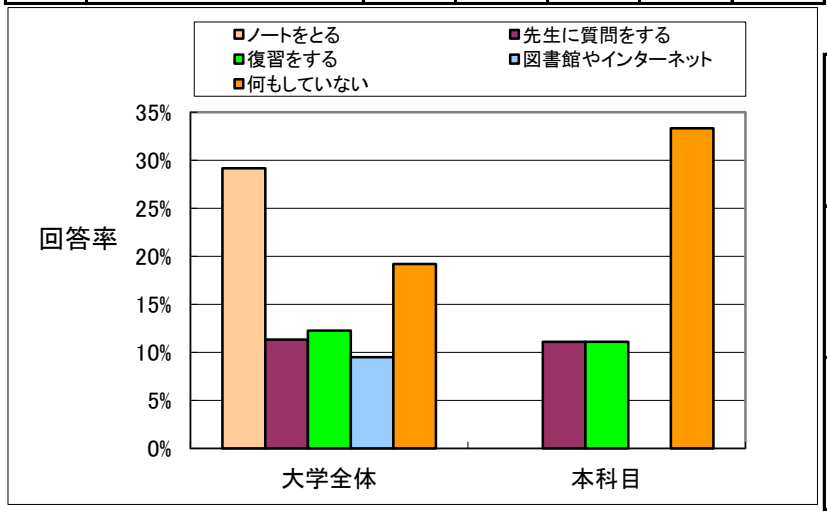
講義科目　授業アンケート結果



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	Ⅰ.(1)	3.22	3.33
	Ⅰ.(2)	3.33	3.45
	Ⅰ.(3)	3.11	2.96
講義内容・方法	Ⅱ.(4)	3.00	3.22
	Ⅱ.(5)		
	Ⅱ.(6)		
	Ⅱ.(7)	3.33	3.30
	Ⅱ.(8)	3.44	3.36
	Ⅱ.(9)	3.44	3.25
	Ⅱ.(10)	3.11	3.30
	Ⅱ.(11)	3.25	3.11
	Ⅱ.(12)	3.44	3.39
総合評価	Ⅲ.(13)	3.22	3.34

※レーダーチャートの平均は4段階評価　4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

<※複数選択可項目>		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
Ⅳ.(14)	授業を理解するための工夫	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%	33.3%



	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 Ⅰ.(1)～(3)	3.22	3.25
講義内容・方法 Ⅱ.(4)～(12)	3.29	3.28
総合評価 Ⅲ.(13)	3.22	3.34

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2013年度　後期
時間割番号	4131
科目名	基礎数学Ⅰ
教員名	

①授業計画の達成度について

基礎数学の授業目標、難易度、到達目標については、学部の教務担当者の決定に任されているため、個々の教員で調整することはできない。授業計画については、科目の特性を考慮して、学生が個人で演習問題の取り組みながら、理解を深めることができるようにすること、および、授業中に取り組んだ内容の記録が残るように、提出、確認、ファイリング、返却といった作業を教員が主導しておこなった。達成度について自己評価するならば、12月、1月の試験前の授業を休まずに出席して、自分の不得意な問題に取り組んだ3名の学生が合格したことから、授業計画としては一定の評価ができると思っているが、学生の学習意欲を向上する手立てが不足したかどうかを検討する必要があろう。

②授業の進め方について

授業は教科書の問題をテーマ別に再編集した必修課題のプリントを用意して、各回8～10問を演習し、教員が解答を確認しながら、やり直しシートに記録するといった進め方をした。多くの学生が同じ間違いをする問題に限り、共通の解説課題として、板書をしながら解説をおこなった。設問9の結果にあるように、学生の理解度を確認しながら授業を進めたと考えている。また、授業環境も適切に守られていたと思う。しかし、設問13の結果を見ると、満足度が全体平均より低い原因は何であろうか。科目内容が計算練習だけになっているので、数理の意味を考える授業になっていないからではないかと推測される。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

教科書の問題を再編集した必修課題プリントを、学生が個々に演習することで計算力を養成するという方法は有効であると考えるので、今後も継続する。取り扱う問題量を必須なものにできるだけ限定したのだが、それでも全体的には多いようだ。また、一度ぐらいの訂正では、同じ間違いを繰り返すことになるので、学生が計算における自分の誤りのパターンを自覚できるまで、何度でも立ち戻る授業進行の仕組みを考案する必要がある。できれば、計算の実践における正確さと、数理的原理の理解とが統合されて実現できるよう、螺旋状に進行する授業計画が必要であろう。

奈良産業大学